



奈良県の特性を活かした海外との交流展開

奈良県知事公室国際課

海外地方政府との友好交流事業

日本で最初の都が置かれた地である奈良県は、中国の唐や韓半島をはじめ、近隣諸国からさまざまな文化・文明を学び、受け入れることで、国の礎とした歴史があります。

このような歴史的・文化的特性を活かし、2011年には、隋や唐の都・長安が置かれた中国・陝西省、百済の都・扶余が置かれた韓国・忠清南道と友好提携を締結し、知事の相互訪問や次世代を担う青年の交流、文化財保護などの専門分野での交流など、多様な交流を重ね、友好関係を深めてきました。

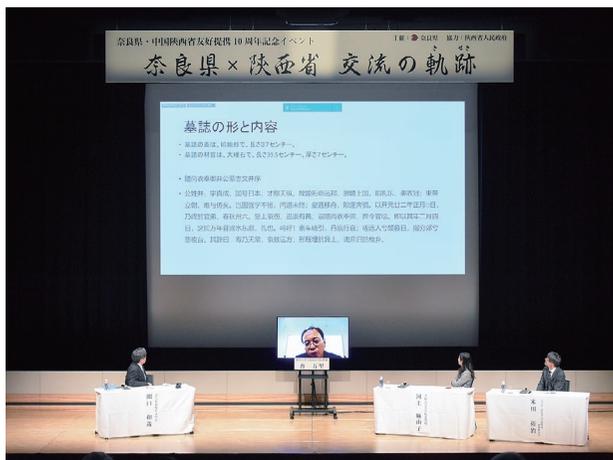
2021年には、中国・陝西省、韓国・忠清南道とそれぞれ友好提携を締結してから10周年という節目の年を迎え、新型コロナウイルス感染症の影響で相互を往来しての交流が難しい中、オンラインなどを活用してさまざまな記念事業を実施し、改めて奈良県と陝西省、忠清南道との交流を県民の皆様や陝西省、忠清南道の皆様に知っていただく機会となりました。



韓国「百済文化祭」における忠清南道との共同ブース出展

先端科学技術大学院大学、奈良県総合医療センターを視察し、医療・介護関係者や行政関係者と高齢化社会の課題や取り組みについて活発な意見交換を行いました。

2021年には、かつてシルクロードの要衝として栄えたウズベキスタン・サマルカンド州とも新たに友好提携を締結しました。友好提携協定書署名式はオンラインで執り行い、シルクロードを通じて古来より深いつながりがあったサマルカンド州とは今後、文化、観光、体育、研究と教育、人材育成などの分野において交流を深めていくことになりました。



奈良県・中国陝西省友好提携10周年記念イベント

また、東アジア圏だけではなく、2015年にはスイス・ベルン州とも友好提携を締結しました。2019年にはベルン応用科学大学学長などによる訪問団が来県し、奈良



ウズベキスタン・サマルカンド州との友好提携協定書署名式

海外の団体との交流事業

奈良県では、共通の課題への取り組みや新たな人的交流・技術交流を促進し、相互にとって有益となる交流を進めたいとの考えから、地方政府間だけでなく、海外の団体との連携も進めています。2016年にはベルン州にあるリース林業教育センターと「日本国奈良県とリース林業教育センターとの友好提携に関する覚書」を締結し、森林や林業に関するさまざまな分野において、積極的に交流と協力を発展させていくことになりました。これまで同センターから本県に、実習生を受け入れるなど、林業分野での技術交流を深めています。



スイス・リース林業教育センターからの実習生の受入れ

また、2019年には、中国・清華大学と包括交流に関する覚書を締結しました。2022年秋には、清華大学芸術博物館において、古代中国と奈良を結ぶアジア交流史をテーマとした展覧会を開催する予定です。

さらに、未来の「食」と「農」の担い手を育成する、「なら食と農の魅力創造国際大学校」においては、スペイン・バスク地方にある世界的な料理専門学校、バスク



清華大学学長が奈良県を訪問

カリナリーセンターとの交流事業を進めるため、協議を継続しています。

東アジア地方政府会合の取り組み

2010年の平城遷都1300年を機に、日本、中国、韓国、ASEANなどの地方政府とともに設立した「東アジア地方政府会合」を継続的に開催し、地域振興など、地方政府共通の課題について議論し、学び合い、相互理解を深めています。

会員数は、設立当初の6カ国40地方政府から、7カ国75地方政府へと増え、会合をプラットフォームとした地方政府間の交流も広がりを見せています。

2019年に第10回の節目を迎え、第11回は2022年にインドネシア・西ジャワ州、続く第12回は中国・山東省臨沂市の主催により、それぞれ現地での開催が決定しています。

今後、ますますの充実・発展に取り組んでいきたいと考えています。



第10回東アジア地方政府会合

おわりに

奈良県は古い歴史文化を持つという特性を活かし、さまざまな分野において、広く世界の地域や海外の団体とお互いに学び合う姿勢で国際交流を展開しています。

新型コロナウイルス感染症の影響により、従来どおりの交流が難しい状況ではありますが、このようなときこそ、互いの理解を深め合う国際交流を積極的に実施することが重要であると考えています。オンラインやビデオメッセージを活用するなど、工夫して国際交流を継続することで、相互に実利のある、将来にわたった中長期的な具体的交流につなげていきたいと思えます。